

2. 研究推進

(1) 研究主題

『生活を深める、豊かな学力の育成』
～PISA 型学力を重視した授業づくり～

(2) 主題設定の理由

本校では算数科において、個に応じた教育を目指して授業実践を中心に学力の向上に取り組んできた。「基礎・基本の定着」を図るために、計算タイムや給食準備中の学習支援（はなまるタイム）、「個に応じた教育」の推進のための少人数指導（習熟度別分割指導、単純分割）、チーム・ティーチング等、授業形態の研究も進めてきた。

平成 20 年度からは文部科学省委嘱学力向上実践研究推進事業の指定を受け、「生活を深める、豊かな学力の育成」を研究主題とし、国語科と算数科を中心に「PISA 型学力」を重視した授業づくりの研究を進めてきた。これまで本校で研究推進してきた「基礎・基本」の習得のための取り組みを継続しながら、国語科と算数科で「活用」する力を培うための指導方法の工夫や改善を行ってきた。

昨年度は、PISA 型学力を重視した授業づくりをするために、自分たちが学んで得た知識や技能、考え方が、次の学習に「活用」されるような授業づくりに取り組んだ。国語科・算数科における「活用」について、講師を招いての研修会を行い、職員の共通理解を図った。校内授業研究では、「活用力、伝え合う、書く力、生活に根ざす教材、学び合い、読む力、言葉に関する力」等、授業交流の視点を明確にし、次の授業に活かすことができるようにした。研究発表会では参会者や指導助言の先生方から多くのご示唆をいただき、次年度に向けての方向性を見出すことができた。評価テスト(1, 2, 3 年本校作成活用テスト、4, 5, 6 年府学力テスト)からは、活用する力[思考]や記述[表現]に弱さが見られ、学習アンケート(本校作成)からは、学習内容と生活との結びつきが希薄であることが明らかになってきた。

本校では、「基礎・基本」(習得)の定着と、それを「活用する力」の育成を両輪とした授業展開を目指している。「基礎・基本」の定着が十分でなければ「活用する力」が育たないのではなく、それらをリンクさせることで両者を育てたいと考えている。落ち着いた学習態度はもちろん、学習に対する意欲、関心を土台として、学習を机上のものだけに終わらせるのではなく、一人ひとり子どもたちの実際の生活において、その質を高め、深める力として働くことができるよう、さらに具体的な実践をしていきたいと考えている。

そこで、本年度も引き続き、国語科と算数科を中心に研究主題の達成に向けて、研究を推進していくことにした。児童の学力や生活力の向上と指導者の授業力向上をめざし、各学年部会や教科部会、学力向上部会と連携しながら全体で研修を行い、全職員で取り組む体制で研究を推進していきたい。

(3) 研究目標

「考える力」「表現する力」を身につけ、実生活の中に活かすことができる力をつけるため授業づくりを研究する。

<算数科> 基礎的・基本的な知識技能習得を確実にしながら、活用力を育成する。

<国語科> 系統的、段階的に読解活用力を育成する。

(4) 研究内容

①読解活用力、活用力を培う

キーワード：学習のプロセス、学習の系統性

学習のプロセスを重視し、次の3つを授業づくりの視点とする。

特に、情報と関わる部分については、学習の系統性を探り手立てに活かす。

- ・ 情報を受け入れる (言葉、場面から情報を受け入れる)
- ・ 情報と関わる (構造にせまる)
- ・ 情報をもとに発信する (読み手として、問題解決の主体として)

[国語科] ◆読解活用力を育てる

◇内容を読み取る

- ・ 文や言葉を根拠にして、内容や出来事、心情を読み取る。

◇構造を読み取る

- ・ 「文章の構成」や「表現の工夫」を対象化しながら読み取る。

◇書き手を意識して読み取る

- ・ 書き手の思いや考え、工夫を意識しながら読み取る。

◇読み手(自分自身)の再構成、読み手からの発信

- ・ 学んだことから自分自身を見直したり、学んだ読みの力を自分の表現に活かしたりする場をもつ。

[算数科] ◆活用力を育てる

◇身近な生活に根ざす教材の開発

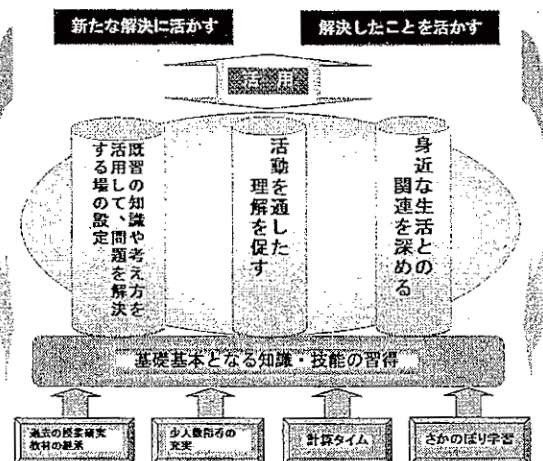
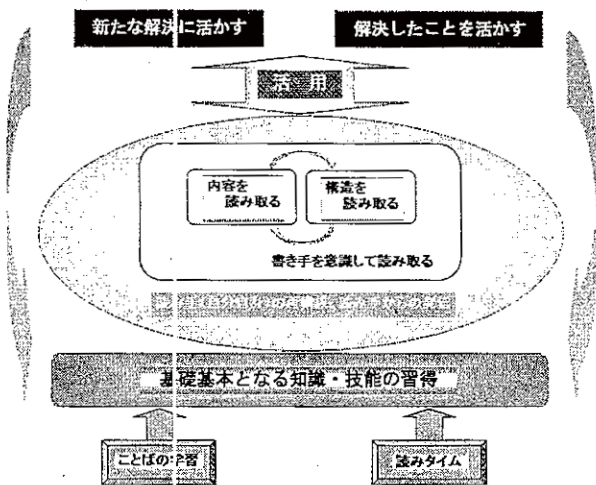
- ・ 子ども自らが「挑戦したい」「もっと深く考えてみたい」と思うことができる教材をもとに、子どもの主体的学習活動を見出す

◇既習の知識や考え方を活用して問題を解決する場の設定

- ・ 子どもの主体性を促す場設定や発問を工夫する。
- ・ 根拠のある考えをもち、主体的な「学び合い」ができるようにす

◇活動を通した理解を目指す

- ・ 算数的活動や表現活動を取り入れ、理解を深める手立てとする。



②学習評価からの授業改善

キーワード：育てたい力、思考・判断・表現、意欲

育てたい力^(*)がついているかどうかを評価する手だてを探り、授業改善^(**)に活かす。特に、「活用力、読解活用力」に関連して思考力、判断力、表現力についての評価の手立てを探る。また、「主体的な学習意欲」を育み、意欲を土台とした授業づくりを行う。

(*)基礎的・基本的な知識・技能の習得	【知識・理解】【技能】
これらを活用する思考力・判断力・表現力	【思考・判断・表現】
主体的に取り組む態度	【関心・意欲・態度】

(**)PISA 型学力（読解活用力・活用力）を培う授業づくり

(5) 主な取り組み

①校内授業研究と研究発表会の実施

- ・学年毎に教科別部会に所属し、国語科・算数科の研究を行う。
- ・1学期に各学年授業研究を行う。支援教育は公開授業を行う。
- ・1学期の授業研究を持ち寄り、教科別部会で系統性を探る。
- ・学年を中心に指導案作成を行い、教科別部会、校内全体研修として取り組む。研究発表会に向けて事前授業を行い、教科別部会を中心に研究を進める。
- ・研究発表会は、11月に全学年（国語3、算数3）で行う。

②診断テスト（算数）

- ・年度初めに実施し、個々の児童への支援材料とする。また、2学期末にも同じテストを行い個々への評価を行うとともに、課題を明確にして次の指導につなげる。

③評価テスト（国語・算数）の実施

- ・低学年は本校作成の学力テスト、高学年は府の学力テストを実施する。
- ・本校の児童の実態を共通理解する手だてとする。

④学習アンケートの実施

- ・児童対象に学習アンケートを行い、児童の実態把握をする。
- ・後期の授業改善に活用する。

⑤計算タイム（月、木）・さかのぼり学習、活用問題

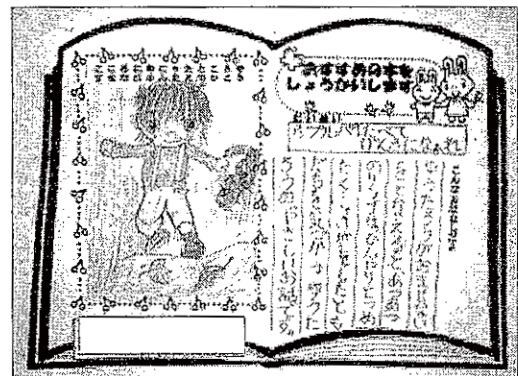
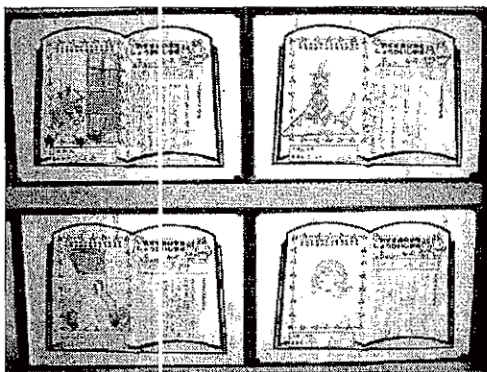
- ・学年の実態に応じた問題を取り入れ、「数と計算」の力の定着を図る。
- ・計算タイムの裏面を利用して、学年の実態に応じたさかのぼり問題・活用問題にもふれる。

⑥読みタイム（水、金）

- ・読みの足あとを残す。 1,2年 読んだ本の記録(読書貯金) 3,4,5,6年 読書ノート

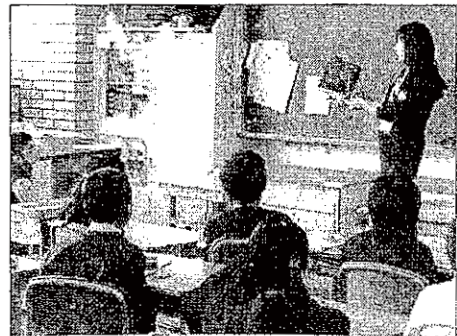
- ・「おすすめの本紹介カード」を作成する日を全校一斉に設定

(5/28 6/30 9/29 10/27 11/12 2/25)



<おすすめの本紹介>

- ・学年に応じて、教師が読み聞かせをする機会をもつ。
- ・図書委員会が1年生の教室で読み聞かせをする。(週1回)



<読みタイム>

⑦はなまるタイム

- ・診断テスト、評価テスト等の結果を参考に児童を抽出し、復習問題に取り組む。
- ・TT担当（3年）、少人数担当（4,5,6年）を中心に実施（給食準備時間）する。



はなまるタイム

⑧少人数指導の充実

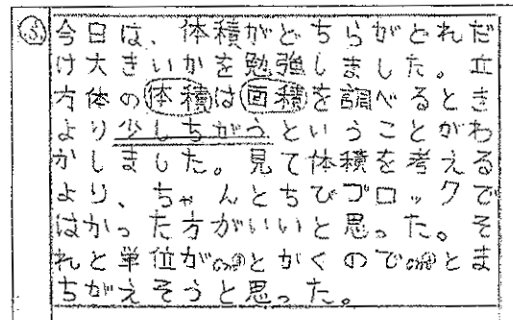
- ・単純分割、習熟度別等の学習形態の柔軟化を図る。
- ・効果的な少人数指導での展開を工夫する。

⑨長小「学習の基礎・基本」の定着を図る

- ・具体的スキルの指導を継続して行う。「発表の仕方」を掲示し、意識する。
- ・年度当初に、学年会での共通理解を図る。

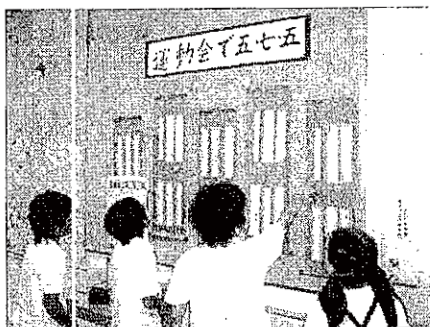
⑩授業や単元のふりかえり

- ・言語化することで自分たちが考えたことを明確にし、理解をより深めることができると考え、学年に応じて「ふりかえり」を話したり書いたりする。
- ・適切なふりかえりを行うために、その時間や単元の課題を明確にし、児童と指導者が共有する。

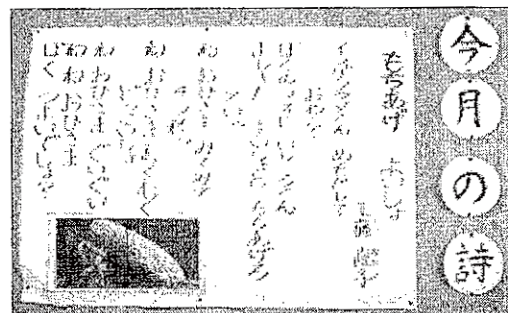


⑪新学習指導要領実施の23年度に向けて

学習評価からの授業改善を含め、評価の在り方を探る。



運動会で五・七・五



今月の詩